

雨量の指標を知っておこう

今年も全国各地で大雨による災害が発生しました。大雨は地震と違い、ある程度予測もされ事前に知ることができますが、「1時間に〇〇mmの雨」と言われても危険度がわからない方も多いと思います。

気象庁から雨の強さと降り方についてまとめた雨量の指標が公開されています(右図)。ニュースや天気予報で「1時間の雨量」や“予報用語”を聞いた時に、それぞれの状況がイメージできると正しい準備や避難行動が可能になります。ぜひ参考にしてみてください。

〈防災士 荻野 勝也〉

雨の強さと降り方

(平成 12 年 8 月作成) (平成 14 年 1 月一部改正)
(平成 29 年 3 月一部改正) (平成 29 年 9 月一部改正)

1時間雨量 (mm)	雨の強さ (予報用語)	人の受ける イメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
10～20	やや 強い雨	ザーザーと 降る。	地面からの跳ね返り で足元がぬれる。 	雨の音で話し声が 良く聞き取れない。 	地面一帯に水たまりが できる。 	
20～30	強い雨	どしゃ降り。	傘をさしていても ぬれる。 			ワイパーを速くしても 見づらい。 
30～50	激しい雨	バケツを ひっくり返した ように降る。		寝ている人の半数く らいが雨に気がつく。 	道路が川のようなになる。 	高速走行時、車輪と路面 の間に水膜が生じブレ キが効かなくなる。 (ハイドロプレーニン グ現象) 
50～80	非常に 激しい雨	滝のように降る。 (ゴーゴーと降り 続く)	傘は全く役に立たなく なる。 		水しぶきであたり一帯 が白っぽくなり、視界 が悪くなる。 	車の運転は危険。 
80～	猛烈な雨	息苦しくなる ような圧迫感 がある。恐怖 を感じる。				